

大仏の案内していただきました。院内では大仏が誕生から現在に至るまでの道筋を説明して貰い、普段なら見落としがちな境内各所に散らばる見学スポットも丁寧に案内して貰いました。

鎌倉宮

次に向かったのは、鎌倉の東端に位置する鎌倉宮です。こちらは「元弘の変」(後醍醐天皇勢力による鎌倉幕府の倒幕運動)で活躍をした護良親王をお祀りする神社です。護良親王は、鎌倉幕府倒幕後に足利尊氏など周囲との歩調が

合わずに孤立。その後、この地の土牢に幽閉され、戦乱の混に降、長い時代の死を遂げます。在が忘れられていたが、明治2年に明治天皇の命により、親王が幽閉されていた奥宮のようにして鎌倉宮が造営されました。こちらは、神職3名の方々の安寧を祈願していただき、その後は司様自ら境内を詳しく案内いただき、鎌倉宮の由緒に



榎亭の広間でくつろぐ



榎亭の玄関(鎌倉山中腹)



鎌倉宮の正面での一枚



鎌倉宮ご祈祷後のお話



北条氏の居宅跡に建つ寶戒寺



有名観光地は大変な賑わい

ついて詳しくお話しを聞くことが出来ました。

頼朝公廟所・寶戒寺

この後は、観光ガイドさん案内での鶴岡八幡宮を目指し、幾つかの見学場所を経由して鎌倉の住宅街の中を歩いて移動しました。そんな道すがらには「大蔵幕府東御門跡」と彫られた石碑が姿を現したり、「地名を見ると西御門」・「二階堂」という歴史と関わり深そうな町名が続き、西御門・二階堂という地名が、武蔵野や御家人が行き交う鎌倉幕府の中心地で有ったのだと想像しながら進んで行く面白さを感じました。今は落ち着いた住宅街ですが、正に八百年前のこの地



頼朝公のお墓

神社に至ります。その神社の横切つたところには源頼朝公のお墓が祀られていました。このお墓は江戸時代に島津家が整備したお墓前と言われます。こちらでは、お供えして、説明を聞いた後に線香を存在を実感されてきました。歩いて来た距離は短いのです。

が、各スポットでの見学時間が少しずつ嵩み、次の参拝場所である円頓寶戒寺に着いたのは、空も少し暮色掛かった午後4時過ぎとなっていました。こちらのお寺は元々が北条氏の屋敷で、北条氏滅亡後に醍醐天皇の命を受けた足利尊氏が北条氏の菩提を供養するために建立しました。こちらでは堂上に上がって参拝してガイドさんの説明を聞き、境内を散策致しました。閉門時間の関係で、少し急ぎ足の見学になったのが残念なところでした。

鎌倉から町田へ

本日の史跡散策のゴールとした鶴岡八幡宮前に戻って来たのは夕暮れ近い時刻となっていました。ここでガイドさんとはお別れで、30分ほど残った見学時間は、八幡宮に参拝に向かう時間、小町通りにシヨツピングに行かれたりと皆さん思い思いの時間を過ごして貰いました。中には、見学では行きなかつた北条高時の「腹切りやぐら」に向かわれた方も有つたようです。自由散策を終えた後は、最初戻り、集合地点であるバス駐車場に



鶴岡八幡宮

第27回総会決算

誠に有り難う御座いました。

経費面では

さて、総会実施について抱いていたもう一つの懸念は、総会経費の方ですが、決算書はご覧の通り（左表）で、今回は赤字となること無く会計を閉じる事が出来たので、皆さんから預かりました参加費の範囲で納める事が出来た。

出来ました。

また、宮田相談役からは心こもった総会お祝い金を頂戴しました。お陰をもちまして安心して会計を閉じる事が出来ました。ご配慮感謝申し上げます。

総会を終えて

さて、4年振りに開催しました山名会総会でしたが、終えてみますと、時間に追われて慌ただしく過ぎて行ったような印象です。多分、何時もと同じで、つい欲張ってあれこれと予定を

入れすぎるので、時間のことばかり気にになり、参加者の皆さんにはせわしない思いをさせてしまっているのだと思います。今後はもう少しゆったりした計画を心がけたいと思います。

コロナ後の活動は

コロナ感染症流行の最盛期には、出口の見えない感染状況に、このまま山名会の活動も再開できないままに自然消滅しても仕方ないと思つた事も有りました。しかし幸いなことにそのコロナ感染症も令和5年秋には沈静化して、今回の総会を計画・実施することが叶いました。

冒頭にも書きましたが、コロナ感染症流行を切っ掛けとして、今まで何とか続いてきた行事や団体が、その継続を諦めたという話はよく聞くところです。

余り喜ばしい事では無いのですが、確かにコロナ流行による社会活動の一時停滞は、色んな事を考える時間を与えてくれました。

必ずしなければならぬと思つていた事柄も、一度中断してみたら、案外不自由なくそれはそれで日常は過ぎて行く物のようです。昔から続いている物を全て次代に残す事には限界があります。そんな意味では、この数年間は、形を変えながらも今年間に残す物・一旦ここで中断する物、それらを峻別する期間でもあつたように思えます。さて山名会につきましては、

如何でしょうか。幸いにして、令和5年は山名会の冊子「山名8号」も皆さんのご協力をいたいただき発行することが出来ました。そして、今回の山名会総会も例会通りの規模で実施することが叶つて、何とか今までと同様の活動が実施出来ました。

しかし山名会にとつては、コロナ期間が明けた、これからが正念場のような気がします。

4年の空白期間の間に、会員各位もそれぞれに年齢を召されて今まで通りのご協力を...とは、余り無理を言えないようなところもあります。

令和6年は、ある程度の会の活力低下を前提として、その苦境にも対応出来る活動や体制を模索し提案していく時期であるように思っています。

今後の山名会の活動について、会員の皆様からご提案等がありましたら、役員又は事務局までアドバイスをよろしくお願い致します。



鎌倉大仏

年次総会のご報告

事業と会計

前回の年次総会は、コロナ感染症流行の影響を受けて令和2年12月実施した書面決議でした。今回の総会では、その後を受けての期間（令和3年1月～5年11月）が対象となります。会計面（下表）では、自粛期

年	年月日	事業等
令和3	6月	コロナ感染症流行に伴う活動自粛の連絡
1年数ヶ月間の活動停滞		
令和4	12月1日	役員会・都ホテル活動再開について
令和5	1～5月	「山名」第8号原稿依頼と編修作業
令和5	4月26日	役員会開催・六孫王神社総会について
令和5	9月	「山名」第8号刊行
令和5	11月29日	第27回山名会総会
令和5	30日	鎌倉・町田・相模原

間の令和3～4年は年会費の請求を行って居ませんので、年会費は令和5年分の実績額だけとなつて居ます。支出面では、山名第8号の発行の印刷会社を変更し印刷に掛かる経費が少しくなりました。各種固定費等が3年分の計上となつて居ます。

令和3～5年度の決算書

会員数の動向

コロナによる4年の休止期間の終わりを告げたのですが、この4年間に、何人かの高齢希望の方から年齢を理由に退会希望の方から年齢を理由に退会希望の連絡を受けました。また、多分、施設入所等で住所変更となり転居先が不明となつて居る方も幾人かあります。そのようなことで、退会・休会が7名となつており、休会が2名の方が入会し、令和2

役員改選

年度に比べますと会員数が5名減となりました。今後、会員数増に結びつく魅力ある活動を計画していかねばと思ひます。

役員改選

役員改選も本来なら令和2年の総会で改選の予定でしたが、年次総会を開催出来ず、通常の総会が実施出来るまで役員全員が留任と延長で、ご無理をお願いしておりました。今総会において役員改選をお

会員数					
	令和2年度	入会	退会	休会	令和5年11月
会員数	56名	2名	4名	3名	51名

計りしたところ出席者より各役職とも引き続き職務継続して貰いたいとの希望があり、各役員にも快諾頂きました。役員の方には、引き続きご負担をおかけ致しますが、どうかよろしくお願い致します。

役員

役職	お名前
理事長	山名 靖英様（京都）
副理事長	草山 宏様（相模原）
常任理事	山名 大介様（名古屋）
	山名 一男様（石川）
	山名 嗣宣様（赤穂）
	太田垣大介様（和歌山）
	山名 正史様（広島）

任期：R5/11～R7/10

新会員の紹介

左記のお二方が新たに山名会に加わっていただきました。是非、行事等にもご参加下さい。

地域	お名前
横浜市	佐竹哲夫様 清和源氏に興味を持って
泉南市	山名栄治様 山名会の存在を知って。

